（様式４）

日本ＮＧＯ連携無償資金協力　完了報告書

１．基本情報	
（１）案件名	若者グループに対する持続的な雇用創出と自立支援に向けた「土のう」による道路補修事業（第１フェーズ） Create Youth Employment through Road Maintenance using Do-nou Technology
（２）贈与契約締結日及び事業期間	・贈与契約締結日：２０１４年１１月５日 ・事業期間：２０１４年１１月１２日～２０１５年１１月１１日 ・延長事業期間：無
（３）供与限度額及び実績（返還額）	・供与限度額：３３７，３４７米ドル ・総支出：３３７，８５４米ドル （返還額：０米ドル、利息５０７米ドル含む。）
（４）団体名・連絡先、事業担当者名	（ア）団　体　名：NPO法人　道普請人 （イ）電　　話：+２５４-７３４－７５５－８１２ ０７５－３４３－７２４４（本部・京都事務所） （ウ）F　A　X：０７５－３４３－７２４４（本部・京都事務所） （エ）E－ｍａｉｌ：afrkita@yahoo.co.jp （オ）事業担当者名：喜田　清（ケニア事務所所長／駐在）
（５）事業変更の有無	事業変更承認の有無：有 （ア）申請日：２０１５年７月２７日 承認日：年月日 内容：事業郡の変更、ボメット郡→ナクル郡 （イ）申請日：２０１５年１０月９日 承認日： 内容：資機材購入費と車両修理費の追加投入、土のう技術品質管理のための巡回指導実施、およびカレンダー作製に伴う予算の移動

２．事業の概要と成果

（１）上位目標の達成度

土のう技術を身につけた若者によるグループの形成と起業化の動きが促進された、若者の労働市場参入に向けた成長を後押しした。本事業を通して５，３６８人／日の雇用が創出された。

（２）事業内容

活動１　カウンティ政府と行う若者グループに対する雇用創出と自立支援に向けた道直しの実施

【指標】道路補修距離が２㎞（１００ｍ×２０グループ）に達する

活動２　土のう工法普及のための実演ワークショップの開催

【指標１】４郡以上で礫質土の供給の協力が得られる

【指標２】３郡以上で訓練終了後の若者グループに対して事業機会が与えらえる

活動３　コントラクター資格取得のための講習への参加

【指標１】１６グループが会社組織として登記される

【指標２】１０グループ以上がコントラクターとして登録される

（３）達成された成果

活動１　若者グループに対して土のう工法訓練が実施され道路補修が行われる

【指標】１００％：道路補修距離 - ２，３０４．３ｍ

【指標に対する成果】４郡、２５グループ（６２７名）の若者に対して、２，３０４．３ｍの道直し訓練を実施した（詳細は表１を参照）。

【課題】補修道路および若者グループの選定は郡政府のオーナーシップのもと行われたが、両者についての課題をそれぞれ下記に示す。

１）補修道路の選定について、本事業で人や車両の往来が見込めない道路や、幹線道路からあまりにも離れた未舗装道路等が選定されたことを受けて、次年度事業では、幹線道路または村の中心に近い未舗装道路の選定を郡政府に申し入れる。限られた事業地で最大限の広報効果をねらいたい。

２）若者グループの選定について、選定は郡政府の道路部局または郡議員が行う。政治的理由から若者グループではなく、各選挙区から数名を選び２５人にまとめられた。すべての事業郡で同様の動きが見られた。訓練のために集められた若者たちは、８日間の土のうによる道直し訓練である程度結束力を高めたものの、会社登録等に進む際の資金管理の段になるとお互いの不信感が募り、会社登録につながらないケースが多々みられた。本事業で、グループの組織強化を数カ月で行うことが難しいと考えられることから、次年度の事業では、既存の若者グループを選定することを事業実施の条件として郡政府に申し入れる。

表１　土のう工法訓練実績

グループ数	郡	各郡訓練数	サブ郡	グループ名	訓練人数	補修距離（m）
1	Kisii	1	Bomachoge Borabu	Magena youth group	25	115.0
2		2	Nyaribari chache	Birongo youth group	25	80.0
3		3	Kitutu chache South	Bonkitu youth group	25	14.0
4		4	Marani	Marani youth group	25	90.0
5	Kericho	1	Soin Sigowet	Kipsitet youth group	25	85.0
6		2	Kipkelion East	Londiani youth group	25	65.0
7		3	Sigowet	Chepoptaa youth group	25	90.6
8		4	Ainamoi	Do-nou youth group	25	100.0
9		5	Belgut	Sosiot youth group	25	80.0
10		6	Bureti	Litein youth group	25	130.0
11	Machakos	1	Mavoko	Kyumbi youth group	25	88.0
12		2	Tala	Tawala youth group	25	163.3
13		3	Yata	Kimwale youth group	25	66.0
14		4	Machakos	Lower Kiandani youth group	25	75.0

15	Nakuru	1	Bahati	Bahati youth group	25	100.0
16		2	Naivasha	Maruti youth group	25	67.0
17		3	Keringet	Kebsa youth group	25	104.0
18		4	Subukia	change makers youth group	25	94.0
19		5	Kuresoi	Mawingu youth group	27	50.0
20		6	Rongai	Solai youth group	25	92.4
21		7	Keringet	Imani youth group	25	107.0
22		8	Molo	Molo Green youth group	25	150.0
23		9	Subukia	Waseges	25	57.0
24		10	Gilgil	Eburru youth group	25	72.0
25		11	Njoro	Lare youth group	25	84.0
				合計	**627**	**2,219.3**

活動２　政府関係機関等が土のう工法を理解し、新規に誕生したコントラクター（若者グループ）へ入札等の事業機会を与える

【指標１に対する成果】ほぼ達成：礫質土の共有 - ３郡（キシイ、ケリチョー、ナクル）による協力を得た（詳細については表２を参照）。

表２：訓練実施における礫質土供給状況

	郡	番号	サブ郡	グループ名	礫質土供給状況
1	Kisii	1	Bomachoge Borabu	Magena youth group	郡政府
2		2	Nyaribari chache	Birongo youth group	郡政府
3		3	Kitutu chache South	Bonkitu youth group	郡政府
4		4	Marani	Marani youth group	郡政府
5	Kericho		Soin Sigowet	Kipsitet youth group	CORE
6		5	Kipkelion East	Londiani youth group	郡政府
7		6	Sigowet	Chepoptaa youth group	郡政府
8		7	Ainamoi	Do-nou youth group	郡政府
9		8	Belgut	Sosiot youth group	郡政府
10		9	Bureti	Litein youth group	郡政府
11	Machakos		Mavoko	Kyumbi youth group	CORE
12			Tala	Tawala youth group	CORE
13			Yata	Kimwale youth group	CORE
14			Machakos	Lower Kiandani youth group	CORE
15	Nakuru	10	Bahati	Bahati youth group	郡政府
16			Naivasha	Maruti youth group	CORE
17			Keringet	Kebsa youth group	CORE
18			Subukia	change makers youth group	CORE
19			Kuresoi	Mawingu youth group	CORE
20		11	Rongai	Solai youth group	郡政府
21			Keringet	Imani youth group	CORE
22		12	Molo	Molo Green youth group	郡政府／CORE
23		13	Subukia	Waseges	郡政府
24		14	Gilgil	Eburru youth group	郡政府／CORE
25		15	Njoro	Lare youth group	郡政府／CORE
	１５現場（合計２５現場）／郡政府による礫質土の供給（６０%）				

【指標２に対する成果】達成度低：マチャコス郡では、土のう技術訓練後、引続き郡政府が若者を雇用し道路整備を進めた。ナクル郡のマウィング YG の代表者がキシイ訓練所で道路成功業者養成コースを受講後、NCA 登録へと進み公共事業請負態勢を整えた。

【活動２に対する成果】国際労働機関（ILO）と共催し土のう工法普及ワークショップを開催した（２０１４年１２月９日）。在ケニア日本国大使館の寺田達志大使のご出席を賜り本事業に対する日本のプレゼンスを高めてくださった。ケニア政府の道路セクターに対して、土のう工法の理解を深めることができた。

【課題】郡政府から若者に対して簡易な事業発注（沿線道路草刈、側溝整備等）が行え

	るよう、引続き郡政府と若者の架け橋が構築されるよう働きかける。将来は、土のう工法を採用した道路補修の事業発注をめざし、同工法をケニア政府の道路仕様標準書に盛り込まれるようケニア政府との協議を続ける。 **活動３　土のう工法訓練を受けたグループの代表者が道路請負業者養成コースに参加し、道路請負業者として登録がなされる。** 【指標１に対する成果】達成度中：２５グループのうち１４グループが組織を登録した。（５６％）。５グループが会社登録の手続きを進めている（２０％）。 【指標２に対する成果】達成度中低：本事業から７グループの代表者が受講した。引き続き登録状況を確認し、適宜助言を行う。 【活動３に対する成果】 ①政府資金の拠出：２０１４年３月、ケニア政府、運輸・インフラ省長官による年間１２０名の若者の訓練費用の政府拠出の約束がなされ、２０１５年５月、２千２百ケニアシリング（約２千６百万円）が拠出され、予定通り 120 名の若者が道路請負業者養成コースを受講した。 ②①を受けたコース実施：本資金により、１２０名の若者が「Routine Maintenance Contractors Course」をケニア政府機関の労働集約的道路管理方法を管轄する「Kisii Training Centre」で受講した。若者の選出はケニア政府と協働で行い、５１名は本団体より、６９名はケニア政府が選定した。コースは各４０名ずつ３回にわたって開催された。 ③同コースにおける土のう工法講義（理論と実践）の実施：本団体の職員が講師を務め、土のう工法の講義（工法、資材の選定、積算方法等）と実演がコース内容として採用された。ケニア政府による人力施工を主とする土のう工法の認知度がさらに高められた。 ④日本・ケニア政府で行うコース修了式の開催：ケニア政府、運輸・インフラ省の提案により、同コースの合同修了式が計画され、開催された。日本政府より、森美樹夫公使、酒井翔平書記官のご出席を賜り、日本の支援を印象付けてくださった。ケニア政府より、エンジニア　キリモ次官補にご出席いただいた。次年度のケニア政府から同予算獲得につなげていきたい。 【課題】本コースのケニア政府の予算拠出は３年に渡ることが約束されている。２年目の資金獲得を目指し、ケニア政府との協議を続ける。
（４） 持続 発展性	本事業では、若者層（ボトムアップ）とケニア政府（トップダウン）双方に働きかけ事業終了後の持続性を確保する。 ボトムアップの取組：事業受注を目指した若者層に対する技術移転と会社組織の形成：ケニアの若者層の失業率の高さの一つの理由として、市場が求める技術と若者層がそなえる技術のミスマッチがあげられる。大多数の若者は特定の技術を習得する場が与えられず、市場に参入する機会が失われている。本事業では、労働市場のミスマッチの溝を埋めるため、若者層に対する未舗装道路補修技術の訓練を実施し、会社設立までの過程を支援することで、道路補修分野の労働市場への参入を促進し、若者層の雇用創出に貢献する。 トップダウンの取組：政府が掲げる社会的弱者救済政策 AGPO（Access to Government Procurement Opportunity-政府の公共事業へのアクセス政策）は、政府事業の３０％を若者・女性・障害者に割り当てる。本政策を活用し、未舗装道路補修技術を備えた若者層の政府公共事業の受注を促進する。また、ケニア政府による、土のう技術の仕様標準化の協議を継続し、同政府による土のう技術を使った未舗装道路整備事業の発注が実現する。このことにより、土のう工法の普及・定着が進むと同時にケニア全国普及の道が開かれ、事業終了後の持続性確保につながる。

３．事業管理体制、その他	
（１）特記事項	ケニア国内では引続きテロに対する警戒を必要とする。適宜、在ケニア日本国大使館および各郡政府より最新の情報を得ながら事業を進める。

完了報告書記載日：２０１５年１１月２５日
団体代表者名：　理事長（もしくは会長他）　氏名　（印）

【添付書類】
① 事業内容、事業の成果に関する写真
② 日本ＮＧＯ連携無償資金収支表（様式４－a）
③ 日本ＮＧＯ連携無償資金使用明細書（様式４－b）
④ 外部監査報告書

添付資料：事業の内容および成果に関する写真

郡	キシイ
グループ名	ボチャ SHG
訓練参加者数	25 名
訓練実施日	2015 年 6 月 23 日から 7 月 2 日
補修距離	115m
土のうを使い路面をかさ上げし、水の停滞を防いだ。	

施工前

施工後

郡	キシイ
グループ名	ニャマチャ YG
訓練参加者数	25 名
訓練実施日	2015 年 6 月 23 日から 7 月 2 日
補修距離	80m
土のう技術訓練後、年間通行性を確保することができた。	

施工前

施工後

郡	ケリチョー
グループ名	キプシテット YG
訓練参加者数	25 名
訓練実施日	2015 年 8 月 4 日から 12 日
補修距離	85m
路面をかさ上げし、側溝を整備することで、排水を確保した。	

施工前

施工後

郡	ケリチョー
グループ名	チェッポプターYG
訓練参加者数	25 名
訓練実施日	2015 年 6 月 16 日から 25 日
補修距離	85m
長年放置されてきた道路の問題個所を整備した。側溝も同時に整備し、水はけ問題を改善した。	

施工前

施工後

郡	マチャコス
グループ名	キュンビ YG
訓練参加者数	25 名
訓練実施日	2015 年 7 月 15 日から 24 日
補修距離	88m
道路が傾斜しているため、上部から流れてくる降雨による溝が発生していた。排水溝を整備し路面の水流を防いだ。	

施工前

施工後

郡	マチャコス
グループ名	タラワ YG
訓練参加者数	25 名
訓練実施日	2015 年 7 月 16 日から 24 日
補修距離	163.6m
土のう技術で整備した箇所は雨季後も安定していた。スポットメインテナンスの重要性を示すことができる現場となった。	

施工前

矢印の線まで施工。未整備の箇所は雨季後、泥沼化した。

施工後

郡	マチャコス
グループ名	キムワレ YG
訓練参加者数	25 名
訓練実施日	2015 年 7 月 15 日から 24 日
補修距離	66m
研修後、郡政府が訓練後の若者を登用し引き続き整備を行った。その後、さらに礫質土を共有し大規模な整備を実施した。	

施工前

施工後

郡	マチャコス
グループ名	ロキ YG
訓練参加者数	25 名
訓練実施日	2015 年 7 月 15 日から 24 日
補修距離	75m
セカンダリースクール前の道路を整備した。路面に滞留する雨水を防ぐため、路面のかさ上げを行った。	

施工前

施工後

郡	ナクル
グループ名	バハティ YG
訓練参加者数	25 名
訓練実施日	2015 年 8 月 25 日から 9 月 2 日
補修距離	100m
側溝の整備と道路のかさ上げにより、路面に停滞する雨水防いだ。	

施工前

施工後

郡	ナクル
グループ名	ソライ YG
訓練参加者数	25 名
訓練実施日	2015 年 9 月 2 日から 8 日、 9 月 24 日-25 日
補修距離	92.4m
水はけをよくするために路面のかさ上げと側溝整備を行った。	

施工前

施工後

郡	ナクル
グループ名	イマニ YG
訓練参加者数	25 名
訓練実施日	2015 年 10 月 14 日から 22 日
補修距離	96m
土のうを敷設し、路面のかさ上げを行った。側溝を整備し、路面の水はけを改善した。	

施工中

施工後

郡	ナクル
グループ名	ワセゲス YG
訓練参加者数	25 名
訓練実施日	2015 年 9 月 2 日から 8 日
補修距離	165m
車両の通行によるわだちと、雨季の小規模な洪水が発生する。洪水時の水位より高い位置に路面をかさ上げし、側溝を整備した。	

施工前

施工後

郡	ナクル
グループ名	エブル YG
訓練参加者数	25 名
訓練実施日	2015 年 9 月 24 日から 10 月 4 日
補修距離	118m
雨水による路面の浸食が著しい。土のうを使い路面を平坦に保つと同時にかさ上げし、側溝を整備した。	

施工前

施工後

郡	ナクル
グループ名	ラレ YG
訓練参加者数	25 名
訓練実施日	2015 年 10 月 6 日から 15 日
補修距離	84m
中等学校前の道路を整備した。土のうによる路面のかさ上げと側溝整備を実施した。	

施工前

施工後